

「知」：学びに向かう力をもつ子どもの育成《1学期の取組の検証と2学期に向けた改善策》

取組指標	取組指標の進捗状況
①見通しと課題のつながりを明確にし、子どもたちの考えの交流を位置づけた授業を工夫する	◇アンケート結果より 73%の児童（考えを持つことができた78%、考えを話すことができた74%、考えを比べたりつなげたりして考えることができた69%）70%の教職員ができたと回答 *学校研究の内容でありこれについては2学期に本格的な研究を行うことになる
②学習のルール4か条を毎月1回チェックする場を設定し、その結果に即した声かけ指導を工夫する	◇アンケート結果より 67%の児童（必要な物を忘れずにそろえる73%、姿勢をよくした62%）、61%の教職員ができたと回答 *毎月末反省は実施した *教員は声かけもしているがまだ努力の余地あり（姿勢がよくない〈子ども自身もよくわかっている〉）
③チャレンジタイムで課題やプリントの間違い箇所のやり直しおよび修正のチェックを毎回行いながら、子どもの実態に即した支援を行う	◇アンケート結果より 79%の児童、81%の教職員ができたと回答 *「少しできていない」「できていない」と回答した子どもは8名
《家庭》 ④家庭学習習慣確立に向けて懇談と通信を通して担任と共通理解した子どもへの具体的な学習支援の方策を実行する	◇アンケート結果より 76%の保護者ができたと回答。 (56%の教職員ができたと回答。) *保護者への定期的な働きかけをしていくことが重要
《地域》 ⑤各学年が学期に1回以上企画する人材活用の学習活動に、積極的に参加する	各学年、次のような人材活用の学習活動を実施 ・カブトムシについて（1, 2, 3年）→1名 ・野菜づくり（2年）→1名 ・神楽（4年）→4名 ・水泳指導（3～6年）→2名 ・読み聞かせ（1～6年）→8名 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">感想を書してくれた方75%</div>

達成指標	達成指標への接近状況
由布市学力調査において、低位層を30%以下にする (1, 2学期においては、国・算の単元テストにおいて、目標値に対する達成率70%以上を目指す)	1～6年の単元テスト観点ごとの達成のべ人数（%） ※詳細（各学年データ）は別表参照 ◇国語（聞く話す）83%（書く）51%（読む）90% （漢字）68%（言語）78% *（書く）（漢字）の観点で70%を下回っている。 ◇算数（考え方）70%（技能）83%（知識・理解）87% *（考え方）は高学年になると70%を下回っている。
児童アンケートで、全員が「授業がよくわかる」と回答する	◇アンケート結果より 83%の児童、69%保護者、54%教職員ができたと回答。

2学期の取組の留意点	
①引き続き見通しと課題のつながりを明確にした授業と交流の仕方を工夫していく	
②毎月確実に目標を持たせ、月末に振り返りを続けていく 姿勢については声かけを続けていく (「背筋をのばして」「いすをひいて」などの具体的な声かけ 体育のサーキットトレーニングで体幹を鍛える 低学年から書く姿勢を重視して指導を続けていく)	
③実態に即した問題量と取り組みのめやすを子どもたちに示して取り組ませ、達成感を味わわせるようにする	
④通信や懇談で子どもたちの学習の様子、進捗状況を伝え、保護者にも関心を高めてもらう 通信では、子どものノートの紹介、学習の進捗、様子などについて伝える (学習についてのお知らせコーナーを設けるなど)	
⑤2学期も引き続き実施。感想を書いてもらう。	
※「授業がよくわかる」については、単元末で〈単元のめあて〉に対して「よくわかったか」を把握する方向性に	